

半径ほぼ20kmの圏内に 世界自然遺産と文化遺産 そしてスギ植物群落保護林が存在する 世界で唯一の地域

世界自然遺産「白神山地」

秋田県と青森県にまたがる白神山地は、1993年に屋久島とともに日本で最初に世界自然遺産に登録された。人為の影響をほとんど受けていない源流域が集中し、森林の伐採や歩道などもほとんど見られない、すぐれて原生的なブナ林が大面積にわたって、ほぼ純林状に分布している世界的にも稀な地域である。また、ブナ林内には多種多様な植物群落が共存し、且つブナ林を背景とした豊富な動植物が生育するなど、ブナを主とする森林の博物館的景観を呈する東アジア最大のブナ原生林である。

白神山地のうち世界遺産登録地域の面積は、約17,000haで、核心地域と緩衝地域とに区分されている。

岳岱自然観察教育林

この遺産地域に隣接して藤里町に「岳岱自然観察教育林」がある。原生的なブナ林で面積は12ha、林内には遊歩道が整備され、誰でも容易にブナ等を観察し、ブナの森の豊かさを実感できる。



写真提供：白神山地世界遺産センター藤里館



写真提供：三木 匡宏氏



出典：JOMON ARCHIVES（北秋田市教育委員会撮影）

仁鮎水沢スギ植物群落保護林

スギは、日本で最も重要な林業樹種で、一番多く植林されている。成長が早く、また材としても扱い易いことから昔から私たちの暮らしに欠かせない有用樹種の代表である。

その天然分布は、北は白神山地に隣接する青森県鱒ヶ沢から南は鹿児島屋久島まで細長く連なっている。日本列島の日本海側の積雪地帯に多く点在しているが、面積且つ量的に最も多く分布しているのは、秋田県である。秋田のスギは、青森のヒバ、木曽のヒノキと並んで日本三大美林と称された。そのスギ美林の姿を今に伝えているのが、能代市ニツ井町の「仁鮎水沢スギ植物群落保護林」である。

面積は18ha、スギのほぼ純林で樹齢が250年前後、上層木の平均樹高が47mのスギが林立する様相は、他に類を見ない雄大なスケールである。最も樹高の高いスギは58mで、天然スギ林で日本一を誇っている。

世界文化遺産「伊勢堂岱遺跡」

2021年に「北海道・北東北の縄文遺跡群」の一つとして世界文化遺産に登録された。環状列石は、祭祀の場として祖先崇拜や神聖な儀式が行われていた場所で、北海道・北東北の縄文遺跡特有のものである。しかも、4つもある場所は伊勢堂岱遺跡の他に例がなく、縄文人の世界観を知るうえで大変貴重である。

遺跡からは多数の土製品や石製品が出土し、それらは様々な模様が装飾されていて縄文人の創造力の豊かさや高い芸術性に驚かされる。そしてそれを支えた社会生活と精神文化をうかがい知ることができるのである。

